

NPO 法人コスモ夢舞台

フクロウだより

Vol.1 1
第4号



2020年 10月30日

<事務局から>

今年もあと2か月と残りわずかになってまいりました。相変わらず、コロナ禍から解放されない憂鬱な日常が続いておりますが、皆さまにはいかがお過ごしでしょうか？

そんな最中、豊実では第17回「里山アート展」が10月24日（土）に無事終了いたしました。出品総点数35点の作品の数々は、豊実の大自然に包まれ、地元をはじめ県内外の多くの人びとに鑑賞していただきました。

ありがたいことに、危ぶまれる中での開催を喜んでくださる見学者も多くいました。継続はまさに力、佐藤さんとマキ子さんともども我われもまた、賛同してくださる皆さまに励まされました。

5月18～6月28日と長期間開催された第2回「奥阿賀国際アートフェスタ」の際も、佐藤さんの提言とその実行力は各方面から高い評価をいただきました。

そしてその延長線上に、公的機関への彫刻作品の寄贈という予想もつかない活動が続きました。とりわけ、いわき市龍雲寺の「石庭」と「門」は話題となりました。その除幕式で、「佐藤さんは、新天地を開かれたのではないか」と複数の方から祝辞がありました。

最近では、平安時代の小野小町を偲んで、喜多方市の高郷町に純白の大理石像を創作・寄贈されています。また一つ、新しいメモリアルスポットが生まれました。

さらに、HBC（北海道放送）の取材ロケも進み、佐藤さんに焦点を当てたドキュメンタリーが来春には全国放映されるそうです。

令和2年は、コロナに開け、コロナに暮れる一年となりましたが、佐藤さんとコスモ夢舞台にとっては記念すべき実りの年となったのではないのでしょうか。（森絃一）

<直近のイベント予定> -----

- 阿賀町表彰 11月6日（金） 午前10時～ 阿賀町公民館1階
- 喜多方市表彰 11月10日（火） 午前10時30分～喜多方市「アザ」文化センター

2020. 10. 26

今が最高1

佐藤賢太郎

今、私は72歳になった。若いころに比べ、身体能力は著しく衰えてきた。悲観的に思っていますが、私もまた必ずいつの日か死を迎えるであろう。しかし私は今が最高であると感じている。それは次々と夢が実現しているからです。先は見えないが挑んでいます。

私は彫刻家として生計を立てていますが、4つ下の大学の後輩は、喜多方市の私が作った彫刻の除幕式に出席した折り、私と同級生の若さの違いを感じたと言いました。もちろん私が若いのだが、それは人生のトータルな足跡がそこに現れていると思う。私は夢を抱いて彫刻の世界に飛び込んだ。工業大学を卒業して教師から彫刻家への転換は、つらいことや、死にそうな時も、思うようならなかったこともあった。年収100万円であった。しかし今、私は毎日希望と目標を抱き、自然とともに生き、そして挑戦をすること、あらゆることとときめきを抱いている。生きことはどういうことか、毎朝学んでいるからだと思う。さらに自分に都合が悪いことも、自分への戒め、ガードマンに変えている。

今年印象的であったことは、その(1)、福島県いわき市のあるお寺さんに二つ作品を設置したこと。一つは「門」という題名で私の生き方を現した。もう一つは世界遺産にもなっている竜安寺をイメージして石庭を作ったことです。そのことは福島の新聞で大きく報道されました。その(2)、30分全国放映されるテレビにヒューマンドキュメントとして出演することになって、ロケも済んでいる。私がディレクターではないので、どんな編集になるか手出しはできませんが、私は本当ことを言っております。そしてタレントのこともあり、危険なことは避けていることもありませんが、私はテレビ出演決定で全力を尽くしました。楽しみにしてください。

もう一つその(3)、平安時代の小野小町は謎の存在ですが、小野小町を純白な大理石で制作し、寄贈しました。これは市の史跡指定でもあり、難しいこともありましたが乗り越えることができました。新しいイメージになるかもしれない小野小町彫刻を市は受け入れてくれました。このことには感謝しています。

2020. 10. 24

阿賀町表彰

森 紘一

おめでとうございます！

この度、佐藤賢太郎さんが阿賀町から表彰されるようです。

平成20年4月1日に制定された阿賀町表彰規則によれば、“町に多大な功績のあった方及び広く町民の模範となる功績のあった方に敬意を表し、表彰する”とあります。



佐藤さんの表彰事由は、地域活性化、芸術文化向上の功績による一般功労表彰となっています。表彰式の予定は、11月6日（金）。

阿賀町は新潟県下越地方の東蒲原郡にある町。2005年に津川町・鹿瀬町・三川村・上川村の4町村が新設合併して発足した。町名の由来は、地域を流れる阿賀野川から。阿賀町は会津と越後のはざまに位置し、江戸時代までは会津藩領だった。豊かな恵みと時に牙をむく大自然にはぐくまれて独特な歴史・文化を培ってきた、と阿賀町のホームページは伝えています。

造形作家の佐藤さんにとって、郷里の豊実はまさに最適のフィールドだったのではないのでしょうか。

そういえば、食の達人マキ子さんも福島県（旧会津藩）のご出身、見事な内助の功は誰もが認めるところです。

どうぞこれからも、お二人そろって「お帰りなさい！」と我われを迎えてくださいますようお願い申し上げます。

2020. 10. 27

喜多方市の表彰

森絃一

佐藤さんが、今度は喜多方市から表彰されることになるようです。たびかさなる表彰、おめでとうございます。

喜多方市の表彰条例に基づき、令和2年度喜多方市表彰者「善行」として表彰されるそうで、その功績は、市政進展のため彫像『飛天の頌（ひてんのしょう）』の寄贈となっています。

表彰式の予定は、11月10日（火）。

「喜多方は第二の故郷」と佐藤さんは常々口にされる。豊実から通い詰めた福島県立喜多方高等学校の生活は、佐藤さんの青春そのものであったに違いない。

今回市役所の入口を飾ることになった作品『飛天の頌』の制作過程は、コスモ夢舞台のホームページに佐藤さんが、その「奮闘記」を書いている。



8月18～27日までの約10日間のブログ（コスモ夢舞台 HP の会員の活動）は、「今に生きる」「今、命がけの仕事」「ひと山超えて」「山場を終えて」「喜多方市長さんを迎えて」とタイトルを見るだけでも、佐藤さんの熱い思いが伝わってくる（ぜひ、佐藤さんの肉声をお読みください）。

ところで佐藤さんは、こうした名誉や表彰をなぜ受けるのか、という謎かけに「私には共に夢を追う大勢の仲間がいる。仲間にはいつも感謝している。野球のイチロウのように恰好よく辞退したくても、それはできない」と自問自答されている。